

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-4 都市・農山漁村空間の保全・整備
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	道路維持課長 山崎 泰助	電話番号	0852-22-5187
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	快適な都市空間創出のための電線類地中化事業		
目的	(1) 対象	道路利用者	
	(2) 意図	県管理道路において電線類地中化事業を活用して電線・電柱をなくすことにより、良好な景観を形成し、安全で快適な通行空間を確保するとともに、万一の地震災害時に電柱の倒壊による道路の寸断を予防しライフラインを確保する。	
事業概要	「無電柱化にかかるガイドライン」に基づき、電線管理者と基本計画（H21～）を策定し、その計画にそって事業を推進し、無電柱化を図る。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	電線類地中化等整備率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義	整備延長（累計）/全体計画延長（39.1km）	目標値		86.00	88.00	90.00	91.00	%
			実績値	84.00	86.00	88.00	90.00		
			達成率		100.00	100.00	100.00		%
	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義		目標値		0.00	0.00			
		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	206,397	78,418
うち一般財源(千円)	48,630	24,145

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

本事務事業は、H23時点で、新たに電線管理者が地中化に合意した延長L=7.8kmが対象  
 そのうち、本計画期間（～H27）に整備が見込まれるL1=4.4kmを目標としている。（L-L1=7.8-4.4=3.4kmは、H28以降の整備見込み）  
 ただし、成果参考指標の算出にあたっては、H22までの整備済延長L0=31.3kmを含む累積延長を考慮する。  
 年度ごとの目標値は同時施工する道路事業の進捗を考慮して積み上げた、計画期間内の整備見込み延長と合意延長の比率（%）  
 H26達成率=整備済延長/計画延長  
 =35.2km/39.1km=90%

	単位	合計 (①+②)	H22までの 整備済延長①	合意延長② (②=③+④)	本計画期間(H23～H27)						H28～ (④)
					計③	H23	H24	H25	H26	H27	
計画延長(a)	km	39.1	31.3	7.8	4.4	1.4	0.9	0.7	0.9	0.5	3.4
整備済延長(b)	km	35.2	31.3	3.9	3.9	1.4	0.9	0.7	0.9		

6. 成果があったこと（改善されたこと）

ほぼ計画どおり無電柱化が進捗し、良好な景観形成における効果が期待される観光地などの地中化は概ね完了している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 計画期間（～H27）の目標達成に向けた問題はない。（関連する道路事業が計画どおり進捗している）
  - しかし、個々の工区は、
    - 施工効率が悪いこと
    - 地元調整に時間を要していること
    - 工事（工期）が長期化していること が問題である。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 施工効率が悪い原因は、拡幅を伴わない限られた道路区域内での作業であるため
  - 地元調整に時間を要する原因は、工事中に発生する振動や騒音による沿道環境への配慮が必要ため
  - 工事長期化は、すでに埋設されている道路占有物（上・下水道、ガス等）への配慮が必要ため
- ③原因を解消するための「課題」
- 軒下配線や裏配線など地中化にこだわらない多様な手法で無電柱化を推進していく。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・景観形成における効果が期待される観光地などの地中化は概ね完了している。  
 ・今後、緊急輸送道路ネットワークの信頼性の向上に資する無電柱化事業を推進する必要がある。  
 また、無電柱化計画のある区間が、ネットワークとしての防災に資するものであることを、電線管理者に理解を求めめる努力も必要である。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）